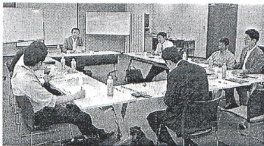


合併・提携に弾力対応

社労士ら士業スクラム

「社会保険労務士や中小企業診断士同士が、それぞれの将来のビジョンや仕事の進め方に合った連携をしている。形態は合併や事業組合の設立、業務提携などさまざま。個人で業務を行うイメージが強い職種だが、企業ニーズが多様化したり業務が複雑化する中、チームプレーが力を発揮しているようだ。(武石貢次)



提携し、そろってセミナー講師として呼ばれることも

門家が集まるケースは多くても、社労士だけは珍しく、愛知県内では初だったという。おのおの強みを存分に発揮しながら補い合える良さがあるのか、信用が増して複数人で業務にもあたることが増え、一人ではやれなかった約2千万円と、個人ではやれなかった1000人、2000人の投資も、従った1000人、2000人の顧問先より規模が大きい従業員1000人もとれる利点がある。以上企業も開拓してこれまでに顧問先は月10億円の目標も掲げているという。

【提携】中小企業診断士や社労士の資格を持ち、経営コンサルをするビジネスリンク(豊橋市)の西川幸孝社長は07年に同業の財務支援研究所(東京都小島宏之社長)と資本業務提携をした。財務面に強い小島氏と人事・労務面が得意な西川氏が組み「補充関係でコンサル力を発揮できる」(小島社長)ようにした。

【LLP】社労士は個人事務所も構えた人が人事労務面に特化。もともと一匹狼強化や新規開拓に相乗効果を生んでいるほか、愛知と東京にある互いの事務所の相互利用などでも協力している。本拠地が異なるため「エリアも違って

既存顧問先への支援強化や新規開拓に相乗効果を生んでいるほか、愛知と東京にある互いの事務所の相互利用などでも協力している。本拠地が異なるため「エリアも違って

得意分野で提案強化

【合併】「コンサルディングをやろうとする」としては「難しい」と話すのは社会保険労務士法人T&M(名古屋市中区)の山口剛志(とくし)氏。加えて、提案型(LLP)を昨年5月で一本化したとしても、いくつかのチーム「けんか別れて長く続かないケースも多い」(西川社長)。2人そろってセミナー講師として呼ばれるケースも多いそうだ。

就業規則や給与・退職金の見直し、給するの困難。そこで各人の得意分野を持ち味を生かして組織的に仕事をすることで「1人、社労士ら異なる専

所とLLPの仕事が分

屋市北区)の山口剛志(とくし)氏。加えて、提案型(LLP)を昨年5月で一本化したとしても、いくつかのチーム「けんか別れて長く続かないケースも多い」(西川社長)。2人そろってセミナー講師として呼ばれるケースも多いそうだ。

所とLLPの仕事が分

屋市北区)の山口剛志(とくし)氏。加えて、提案型(LLP)を昨年5月で一本化したとしても、いくつかのチーム「けんか別れて長く続かないケースも多い」(西川社長)。2人そろってセミナー講師として呼ばれるケースも多いそうだ。

屋市北区)の山口剛志(とくし)氏。加えて、提案型(LLP)を昨年5月で一本化したとしても、いくつかのチーム「けんか別れて長く続かないケースも多い」(西川社長)。2人そろってセミナー講師として呼ばれるケースも多いそうだ。